

TABLE FOR TWO

かわら版 vol. 12. 2012年6月発行

コミュニティが学校給食を変える

肥沃な土地、豊富な雨に恵まれたウガンダ共和国。1970年代アミン政権の混乱後、外国支援の下で経済復興を遂げ、現在ではサハラ以南アフリカにおいて経済成長率の最も高い国の一つです。一方、経済発展の恩恵にあずかっているのは、限られた人々に留まっているのも現状です。全人口の90%近くが農村部に暮らしており、農村地域の生活改善は主要な国内目標の一つです。

TFTが学校給食を届けているイシングロ県ルヒイラ村も例外ではありません。農業が主要産業であるこの地域では、日々の食事も、農業の状況に大きく依存しています。ルヒイラ村では、主食用バナナの生産が盛んですが、バナナは入手が簡単で腹持ちがいい一方、栄養価は偏っています。TFTでは、トウモロコシの粉を蒸したもの(ポシヨ)と豆や野菜のスープを、学校給食として提供しています。各家庭で栄養バランスへの配慮がなかなか行き届かない中、学校給食は、子どもたちの健康的な成長を支えています。同時に、親たちの栄養に対する考え方にも、変化が見えてきました。給食開始当初は、食材のほとんどがTFTからの支援でまかなわれていました。しかし現在では、豆やドドと呼ばれる緑黄色野菜などが、生徒の家庭から拠出されるようになりました。栄養バランスのとれた食事の重要性が理解されはじめ、給食プログラムへのコミットも高まっています。



ルヒイラ村ゴマ小学校

これまでに集まったご寄付
(2012年5月31日現在)

1,489万1,339食

子どもたちの、将来の可能性を広げる学校給食

親やコミュニティの協働により、子どもたちが継続して学校に通えるようになりました。お腹が満たされた中で勉強に専念できるようになり成績にも良い影響が出ています。

ウガンダでは、小学7年生は卒業試験を受けることになっており、一定以上の成績を収めた生徒のみが、中学校に進学できます。TFTが支援を開始した2007年から2010年にかけて卒業試験に参加できる生徒数が約1.5倍に増え、さらに成績優秀と評価される生徒数は約2倍になりました。



ルヒイラ村ニヤカムリ小学校

TABLE FOR TWO 代表より

TFTの仕事を通じて初めて訪問した支援先がウガンダでした。空港に降り立った際、踏みしめたアフリカの赤土や、ルヒイラ村の子どもたちが、私たちの訪問を喜び、滞在中ずっと手をつなぎながら学校を案内してくれたことが心に残っています。TFTにご参加いただく皆様のお陰で、その子どもたちの表情が日に日に明るくなっているのを実感しています。



(代表・小暮真久)

ウガンダ共和国

- 首都: カンバラ
- 民族: バガンダ族、ランゴ族、アチョリ族など
- 言語: 英語、スワヒリ語、ルガンダ語など

農作物を中心とした輸出品の多様化や付加価値付与に重点を置き、貧困削減に向け国家として取り組んでいる。日本との経済関係では中古車販売の比率が大きく、年間2万台弱が日本からウガンダに輸出されている。



-What is TABLE FOR TWO? -

社員食堂やレストランでヘルシーメニューを食べると、その代金のうち20円が寄付され、アフリカ(ウガンダ、エチオピア、ケニア、タンザニア、ルワンダ)の学校給食1食分になるという日本発の社会貢献事業。